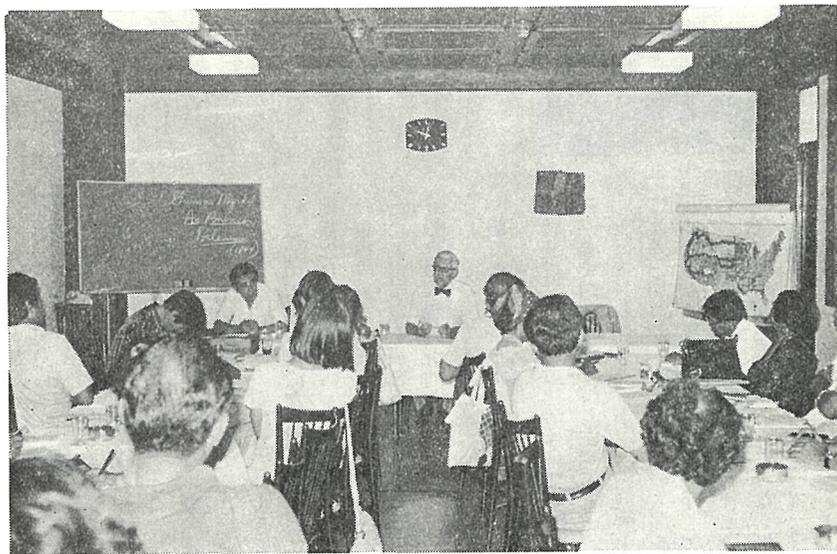


## 同志社大学アメリカ研究所



京都アメリカ研究夏期セミナー風景

アメリカ研究所は、同志社の中で国際交流と関係の深い機関の一つである。この一月、エドワード・ケネディ上院議員と同志社大学の教授たちの懇談会が行われたが、これを主催したのは、アメリカ研究所である。ケネディ氏のように知名な政治家との会合は珍らしいが、アメリカ人学者を講師とするセミナーや研究会はひんばんに持たれており、今年度は、イェール大学の政治学教授アプター、ハーヴァード大学の歴史学教授ブローナーをはじめ、約十名のアメリカ人教授が研究会に招かれた。アメリカ人だけでなく、後述する「京都アメリカ研究夏期セミナー」には、韓国、タイ、インドネシアをはじめ、アジア各地の学者が参加している。アメリカ研究所は、これら各国の研究者とも連絡を保っている。

また、昨年から事業を開始した日米友好基金は、学術・教育・芸術を通じて日米両国の友好を促進するため、米国議会の立法により設立された基金であるが、同基金は同志社のアメリカ研究所の活動に注目して、積極的に援助を約束している。このよ

うにアメリカ研究所は、すでに国際的評価を得ているが、一般にはその存在があまり知られていないくらいがある。

アメリカ研究所が同志社に設立されたのは昭和三十三年、ちょうど二十年まえである。同志社以外で、わが国の大学でアメリカ研究所があるのは、立教、東大、京大、琉大、南山大である。このうち、東大と同志社のアメリカ研究所がとくに充実した設備をもち、活発な活動をしている。同志社のアメリカ研究所は、設立当初から図書・研究資料の収集に努力を傾けてきた結果、現在三万冊余の図書を蔵している。これはわが国で最も充実したアメリカ研究所のライブラリーで、学内のみならず、全国の研究者によって利用されている。

資料・文献の収集とならんで、重要な仕事は、共同研究である。現在実施されているのは、(一) 日米文化交流、(二) アメリカ文化と宗教、(三) 最高裁判所、(四) 戦後アメリカ経済、(五) アメリカのコミュニティに關する五つの研究プロジェクトである。これまでの研究成果は、単行本として出版されたり、また論文として『同志社アメリカ

研究』に掲載されてきた。同志社アメリカ研究』のようなアメリカ研究専門の学術誌を刊行している大学は、同志社だけである。現在、専任の研究スタッフは二名、来年度より一名の増員予定であるが、じゅうぶんな数とはとてもいえない。しかし、各学部の教員が多数、熱心にプロジェクトチームに参加している。このように、アメリカ研究所は、学内の他の研究所とともに、学部の壁を越え、異なる専門の研究者が協力しあう場である。また、これらの研究プロジェクトがアメリカ人学者との交流の機会を提供している。

京都アメリカ研究夏期セミナーは、同志社大学が、京大と共催で、二十五年以上続けてきたプログラムで、アメリカ研究所がその実施の中心として、責任を負っている。毎年アメリカから五名の教授を講師として招き、日本全国から約八十名、アジア近隣諸国から約二十名の若い研究者を集めて、二週間の国際学術会議を行うのである。講義とそれをめぐる専門的討論が毎日午前中、びっしりと行われる。午後には、やや一般のプログラムが組まれる。このセミナ

ーは、西の「ザルトツブルク・セミナー」と並ぶ、東の「京都セミナー」として国際的に知られ、日本、アメリカ、アジア各国の研究者の交流に貴重な貢献をしてきた。資金面では、はじめはアメリカ側の基金に全面的に依存していたが、最近ようやく、わが国の文部省も日本学術振興会を通して援助を与えてくれるようになった。このような国際的セミナーを毎年続けるには多くの人の協力を得なければならないが、同志社が中心になって、この有意義なプログラムを継続してこれたのは、アメリカ研究所があったからだといっても過言ではない。

私学の苦しい財政の中で、アメリカ研究所が育ったのは、新島先生以来の日米交流の伝統があったからであろう。今後いっそう研究所が発展し、学術的研究において、名実ともに国際的貢献をなすよう努力することこそ、この伝統を生かす道と信じ

(大下尚一・大学アメリカ研究所長)